

児童・生徒の実態	本校の教育目標	保護者や教師の願い
- 小学生から成人まで幅広い年齢層の児童生徒が学び、社会経験や障害受容の程度などに大きな差がある。 - 晴眼者にとっては簡単な概念形成であっても、その育成のための工夫が必要である。 - 他者の意図や感情の変化を読み取ることが難しく、一方的なコミュニケーションになったり、もしくは他者とのかわりが消極的、受動的になったりする傾向がある。 - 自己肯定感が低い。	ヘレンケラー女史が、本校に餞として残してくれた「英知・忍耐」という言葉を信条として、視覚等の障害を克服し調和のとれた人格の形成に努め、社会の一員として自主的・積極的に生きる人間を育成する。	- 必要に応じて周囲の支援を受けながら豊かな生活を送ってほしい。 - 目標実現のために努力する人になって欲しい。 - 将来に向けて自分らしい生き方を選択して欲しい。 - 自立した生活ができるようになってほしい。 - 社会の一員として、それぞれの役割を担い未来を支える力になってほしい。
	「志教育」の目標	
	より自分らしく豊かに生きるために、自己実現を果たすための課題や今取り組むべき事柄について積極的に考える意欲や態度を育成する。 1. 自分を生かすネットワークを築く。 2. 自分の目標を実現する方法を学ぶ。 3. それぞれのやり方で社会に貢献する。	

重点指導事項		
人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
周りの人たちとのかかわりの中で、自分を見つめ相手の気持ちを理解し、相手の立場で考え、行動できるように促す。	学習や生活と将来の生き方との関係を理解し、将来の希望に基づいて目標を立てるとともにその達成に向けて努力しようとする態度を養う。	学部・学校行事の中で、それぞれが責任のある役割を持ち、自分の存在を認められるような活動を行う。

各教育活動における取り組みの観点	各学年の取り組み内容
各教科 - 社会生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能の定着と学習の成果がより実生活に応用できるようにする。 道徳 - 自己を見つめ、他者への感謝、思いやりを持つ生徒の育成をする。 - 社会規範やマナー等の必要性や意義を理解し習得させる。 総合的な学習の時間 - 粘り強く課題に取り組む解決しようとする力を育成する。 - 自己決定力の育成 - 体験学習を通して経験領域を拡大し、職業観や就労観を高める。 特別活動 - 集団の一員としての役割を自覚し、仲間と協力する態度を育てる。 自立活動 - 個々に応じた自立への基礎となる力を伸ばしながら、自己肯定感が持てるようにする。 - 自らの課題に向き合い、課題解決のために根気強く努力する態度を養う。	1 学年 - 中学生としての自覚を持ち、進んで学習や諸活動に取り組むことができるようにする。 - 自分の障害や特性を理解し、他者と協力する態度を育てる。 - 公共の場における振る舞いを知る。 - 身近な問題や職業調べを通し、社会の仕組みについて知る。 - 将来の夢や目標を考える。 2 学年 - 社会の仕組みや公共施設の利用法などを学び生活経験の拡大、充実を図れるようにする。 - 働くことの意義や尊さを理解する。 - 社会貢献について考える。 3 学年 - 卒業を見据え、卒業後の具体的な進路について考え調べる。必要に応じ、上級学校への訪問など、様々な情報収集・整理・検討を行う。 - 自分の個性を自覚し、自分の言動に責任を持つ。他者の感情を理解し、互いに支え合える友人関係を築く。

家庭との連携	地域・企業との協働
- 現在学校で行っている教育活動が卒業後や将来にどう関係しているのか、社会人となるためにどのような力を培っているのか等について説明を果たし、将来の展望について保護者と共有する。 - 教育相談 ・ 支援会議 ・ 進路研修会 ・ 連絡帳 - 個別の教育支援計画 ・ 個別の指導計画	- 障害理解の啓発と支援の連携協力を推進する。 - 宮城教育大学等、外部の専門家や地域資源の積極的な活用を進める。 - 支援会議、就労支援講演会の開催 - 居住地校学習 - 共同学習